

研究会開催のお知らせ

1991年度春季大会の前日（5月21日）に、下記の研究会が開かれます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

講演企画委員会

1. 極域研究連絡会1991年春季研究会

1991年日本気象学会春季大会の前日夕刻に極域研究連絡会主催の研究会を開催いたします。今回は日本の研究者の関心が最近高まっている北極圏をとりあげ、その第1回として、大気微量成分に中心をおいたプログラムとすることにしました。奮って、ご参加下さい。

テーマ：「北極圏の大気環境(1)」

日 時：5月21日（火） 16時～18時

場 所：気象庁第1会議室

プログラム

1. 国立極地研究所北極圏環境研究センターについて
小野 延雄（極地研）
2. 北極オゾン 近藤 豊（名大 STE 研）
3. 極域下部成層圏のエアロゾル粒子
—INSTAC 航空機観測の結果
岡田 菊夫・池上三和子（気象研）
4. Arctic Haze について
太田 幸雄（北大・工）
5. 総合討論
（世話人）山内 恭・神沢 博（極地研）
山崎 孝治（気象研・気候）

2. 大気海洋相互作用に関する研究会—COARE を目指して

10年計画で1985年から始まった TOGA（熱帯海洋全球大気変動研究計画）も後半に入りました。特に、1992年11月から1993年2月には、日本の南の西太平洋域で、GATE 以来の大規模な特別観測（COARE-IOP）が予定されています。日本国内でもこの計画に全国の研究者が参画しています。大学では、新プログラムが走り始めていますし、気象庁などにおいても、科学技術庁のプログラムの下に、観測・解析・数値実験などが行われています。

全国から研究者が一堂に会する気象学会の開催を機に、上記研究会を下記の要領で開き、海洋関係の研究者も含めて、「大気海洋相互作用」について、特に今回は

COARE-IOP の具体的な内容、研究の進め方などについて討論し、研究者間の意見交換と交流を行う予定です。ふるってご参加下さい。

なお、詳細については追ってお知らせ致します。

日 時：1991年5月21日（火） 14時～17時

場 所：気象庁講堂

世話人代表：住 明正（東京大学理学部）

3. 第1回メソ気象研究会

メソ気象を理解するためにいろいろな視点（ α , β , T のスケール別のアプローチ、力学、雲物理、境界層過程など物理過程別のアプローチ、観測・解析、数値実験、理論など手法別のアプローチなど）から研究が行われていますが、メソ現象の持つ幅広さや多様性のため、その総合的理解を得るのはなかなかむずかしいものです。メソ気象に関する到達段階や問題点を知りたいと思っても、気象学会の短い講演発表だけでは不十分ですし、全体がわかるような議論の場がないのが現状です。こうした現状を突破するには、メソ気象に関していろいろな分野の研究者が集まって時間をかけて自由に議論できる交流の場を作るのがまず必要です。こうした交流を繰り返すことによって、複合的なメソ現象に対する理解は深まりお互いに刺激を与えることとなるでしょう。

このような趣旨に基づき、メソ気象に関する交流の場となる「メソ気象研究連絡会」の設立を日本気象学会理事会に1990年12月に申し込み、このたびこの設置が認められました。

そこで、メソ気象研究連絡会の活動の一環として第1回の「メソ気象研究会」を下記の通り開催したいと思います。この研究会への参加は自由ですので、奮ってご参加ください。

今回のプログラムは世話人が中心になって決めました。今後の研究連絡会の運営については当日講演終了後に議論する予定ですが、ご意見のある方は事務局世話人までご連絡ください。

記

開催日時：1991年5月21日（火）13:00～17:00

会 場：気象庁東京管区会議室（8階）

テ ー マ：「地形とメソ気象」

1. 猪川元興（気象研究所）：
メソスケールの山岳を越える流れ
2. 菊地勝弘（北大理）：
北海道オロフレ山系南東斜面の降雨特性
3. 藤吉康志（名大水圏研）：降雪と地形
4. 藤部文昭（気象研究所）：
関東地方に現れるメソスケール前線の気候学
5. 小倉義光（日本気象協会）・永田 雅（気象研究所）・田畑 明（気象研究所）：
山を越える寒冷前線のメタモルフォーゼの事例解析
一重力流から pre-frontal sbuall line まで
6. 万納寺信崇（気象庁）：数値モデルが表現する地形の影響

- 代表世話人 小倉義光：日本気象協会
世話人 菊地勝弘：北海道大学理学部
武田喬男：名古屋大学水圏研究所
高橋 劭：九州大学理学部
坪木和久：東京大学海洋研究所
近藤裕昭：公害資源研究所
栗原和夫：気象庁
檜尾守昭：気象庁
榊原 均：気象研究所
吉崎正憲：気象研究所
事務局担当世話人 坪木和久：東京大学海洋研究所
03-3376-1251
吉崎正憲：気象研究所
0298-51-7111

シンポジウム「オゾン研究の展望」開催のお知らせ

講演企画委員会

共 催：日本気象学会，地球電磁気・地球惑星圏学会
日 時：1991年4月4日（木） 13：30～17：00
場 所：共立女子大・八王子校舎（東京都八王子市）
案 内：JR 中央線高尾駅，共立女子大・循環スクール
パス（無料）

趣 旨：

大気オゾンについての関心は，今や大衆レベルにまで広がっている。しかし，オゾンに関する科学的知見のレベルは，必ずしも十分なものではなく，オゾンホールの原因も不明な点が多い。それゆえ，今の時点でオゾン研究の現状を再点検することが大切であると考えられる。このような認識に立って，オゾン研究の専門家にオゾン科学の諸問題をレビューして頂く。「合同大会」に合わせて行う共催シンポジウムでもあるので，専門外の方々にも多数参加して頂けることを念願している。

問合せ先：木田秀次（気象研究所）

プログラム

1. 「オゾン研究の歴史的経過」
関口理郎（気象協会）
2. 「オゾン定常観測と観測網」
松原廣司（気象庁観測部）
3. 「オゾンの観測技術」 鈴木勝久（横浜国大）
（休憩）
4. 「オゾンと大気大循環」川平浩二（富山高専）
5. 「大気化学組成のグローバルな循環
からみたオゾンホール」
岩坂泰信（名大 STE 研）
6. 「オゾンの数値モデル」佐々木徹（気象研）
7. 総括 司会・近藤 豊（名大STE研）